



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三九八号〕

小暑 しょうしょ
七月七日

齋宮の世だめし絵馬

七月七日、「笹の葉さらさら、軒端のきばに揺れる」といくつになっても口ずさんでしまいます。毎年気になる七夕の節句のお天気、今年はどうでしょうか。そろそろ梅雨明けの時期。雨は降りすぎると困りますが、稲作など農業にとってはとても重要です。古くは雨が降ってほしいという「雨乞い」、雨を止めてほしいという「雨止め」など、雨にちなむ祈禱きとうなどが各所で行われていました。伊勢神宮に仕える皇族女性、齋王さいおうが暮らした齋宮さいくう(明和町)にも、齋王が途絶えた室町時代以降、雨にちなんだお堂があり、それは能の「絵馬」として伝わっています。

能「絵馬えま」は、齋宮の東端の辻にある絵馬堂で、白馬を描いた絵馬と、黒馬を描いた絵馬のどちらをかけるのかを言い争っている男女に、都から来た勅使ちよくし(天皇からの使い)がどちらでもいいと仲裁すると、二人は喜び、我々は神であると正体を明かす筋立てです。齋宮歴史博物館では、その男神の能面のうめんが展示されていました。白髪に白いあごひげが長く伸びた翁おきなの能面。どちらの絵馬をかけるのか、真剣に争う厳かな雰囲気おきなが伝わってきました。ちなみに白馬であれば翌年は晴天が、黒馬であれば雨天が多いとされます。江戸幕末の頃の書物には、この絵馬は古代、倭姫命やまとひめのみことに随行してきた家来の子孫の家が関わっていたものの今は別の家になっているという聞き書きが記されていました。齋宮の絵馬堂にも、倭姫命にちなむエピソードが語られていたことに驚きました。この神事は、「齋宮の世だめしの絵馬」と呼ばれ、翌年の農業の豊凶を占うものとして長く知られていたそうです。齋王が途絶えても、なおその神秘的な力は信じられていたと思わせる齋宮の絵馬。このお堂は大正元年(一九一三)に撤去されましたが、お能の中では今でも語られています。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 伊勢角屋麦酒×おかげ横丁BeerGarden

8月4日、伊勢神宮で雨風の災害もなく天候が順調で、五穀の稔りが豊かであるよう御幣を捧げてお祈りするお祭り「風日祈祭(かざひのみさい)」が執り行われます。

夕暮れのおかげ横丁で風日祈祭を奉祝し、その恵みに感謝しながら、伊勢角屋麦酒をご堪能ください。

と き／8月5日(土) 17:00～19:45

ところ／おかげ横丁一帯

※天候など諸事情により内容を変更する場合がございますので予めご了承ください。

<500名様限定! ご利用がお得なクーポン5,000円(税込) 予約販売中!! >
ビアガーデンを、よりお得に、よりご満喫いただくための、500円券10枚綴り+おかげ横丁商品券(500円)の限定クーポン券です。

※会場内で販売するクラフトビール(1杯600円)を、クーポン券(500円)1枚でご利用いただけます。

※当クーポン券は、商品券として他のメニューや商品にもご利用いただけます。

(当クーポンをお求めでない場合やクーポンをご使用済みの場合も、それぞれ現金にてご利用いただけます。)

お申込み・お問合せ／おかげ横丁「オンラインショップ」電話0120-081-229

五十鈴塾

○ 気候変動を正しく知ろう ～いま、三重県で起きていること～

気候変動で松阪牛はどうなるの? 気候変動と天むすが関係している? 気候変動が進むと潮干狩りやたて干しができなくなるって本当?

ネットや新聞、テレビなどで毎日のように目にする「気候変動」。

私たちが暮らす三重県でも、さまざまな影響が現れています。

農林水産・自然・防災・健康などさまざまな分野で、今なにが起きているのか、どんな対策が取られているのか、豊富なデータと県内でのヒアリング結果をもとに、樋口先生に分かりやすくお話しいただきます。

と き／7月13日(木) 13:30～15:00

講師／樋口俊実(三重県気候変動適応センター事務局長)

参加費／一般 1,450円 会員 950円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

みずぼたん

水牡丹

牡丹色に染まった梅の甘露煮を、葛生地で包み込みました。
爽やかな梅の酸味と、葛生地の透明感をお楽しみくださいませ。

みす
御 簾

昔、住まいの間仕切りに使われていた御簾が今日ではすだれとなって、庶民生活にも広まりました。夏の暮らしへの想いを緑縹と琥珀羹で涼しく仕立てました。

ほおずき

暑さがつるるとともに、赤い色みを深めるほおずき。
外郎生地でさらりと甘い黄身餡を包んで、あっさりとした味わいに仕立てました。